

平成 29 年 10 月 27 日

各 位

株 式 会 社 北 都 銀 行

第 5 回プラチナ大賞にて優秀賞を受賞

株式会社北都銀行（頭取：斉藤 永吉）は、プラチナ構想ネットワーク（会長 小宮山 宏）・プラチナ大賞運営委員会（委員長 増田 寛也）が主催する「第 5 回プラチナ大賞 最終審査発表会・表彰式」において、弊行が応募した「地方銀行が取り組む地域資源を活用した地方創生～大型木質バイオマス発電事業をプロジェクトファイナンスでサポート～」の取り組みが優秀賞に選ばれました。

記

1. 第 5 回プラチナ大賞について

【主催】

プラチナ大賞運営委員会（委員長：増田寛也）

プラチナ構想ネットワーク（会長：小宮山宏）

後援：総務省、経済産業省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、特別区長会

【目的】

「課題先進国」として日本が目指すべき社会を「プラチナ社会」と定義。イノベーションによる新産業の創出や、アイデア溢れる方策によって地域の課題を解決し、「プラチナ社会」の目指す社会の姿を体現している、また実現しようとしている全国各地の取り組みを賞というかたちで称え、広く社会に発信することを通じて、「プラチナ社会」実現に向けたビジョンや具体的なアクションの理解・新党を図る。

【表彰式の様子】



（次ページに続く）

《本件に関わるお問合せ先》

北都銀行 経営企画部広報室 （担当：市田）（内線 3811）

2. 弊行の取り組み内容【地域資源を活用した地方創生～木質バイオマス発電事業～】

秋田県内の未利用間伐材などを活用した木質バイオマス発電事業について、当行が幹事行となり総事業費 125 億円のうち総額 106 億円の協調融資（プロジェクトファイナンス）を組成。木質バイオマス発電所の周辺雇用（本発電所における雇用、燃料となる木質チップ工場における雇用）等の経済波及効果をはじめ、間伐実施による環境保全や林業の活性化（人材育成）など、事業総体での地域活性化に貢献する事業。

① 社会ニーズへの対応

県土の約 7 割が森林を占める秋田県は、杉の生産量は日本一であり、一方で、間伐材から出る約 3 割の未利用材が森に捨てられており、新たな植樹等も出来ず、土砂崩れの原因にもなっていたため、当該事業は間伐材等の整備促進等の環境保全にも貢献。

② 事業モデルの革新性と持続可能性

これまで捨てられていた未利用材を、相場より高めの価格で発電事業者が購入し、山側に十分な利益を提供する一方で長期間の供給契約を締結。当該事業に対し、特別目的会社を設立しその事業収益のみを返済財源とするプロジェクトファイナンスのスキームを活用。

③ 地域経済への効果

当該事業の 20 年間の経済波及効果は 501 億円、雇用効果は 4,710 人と試算。加えて、平成 27 年に開校した林業学校の 1 期生 18 名が、県内の森林組合、林業会社、木材加工会社などに就職。新しい雇用の創出、教育分野、若者の県外流出防止に間接的に貢献。

④ 協働の実現

秋田県内でのバイオマス発電事業化のために国のサービスを活用し、各所（産学官金）からの支援を受け、当該事業実現に向けた研究会発足から 3 年 5 ヶ月で運転開始を果たす。

⑤ 国内他地域への展開

全国のバイオマス発電所に O&M サービスの提供を目指すべく、秋田で育成した人材を全国へ派遣する取り組みを展開。

以 上

地方銀行が取り組む 地域資源を活用した地方創生

～大型木質バイオマス発電事業をプロジェクトファイナンスでサポート～

平成29年10月26日

北都銀行 頭取
齊藤 永吉

秋田の発展が当行の成長へ

地域課題の解決

地域にイノベーション
を起こす

地方創生戦略の強化（8つのイノベーション戦略）

①再生可能エネルギーを軸とした新しい産業の創出	⑤女性の活躍フィールドの創出
②中小企業の新しい価値創造	⑥県外・海外からの移住促進
③農業の高付加価値化（6次産業化）支援	⑦グローバル戦略による秋田ブランド確立
④シニアが輝く地域づくり	⑧観光資源を活用した地域づくり

“地域リスク”をとるための経営基盤を強化

【1】優れた風況

都道府県別風力発電導入量

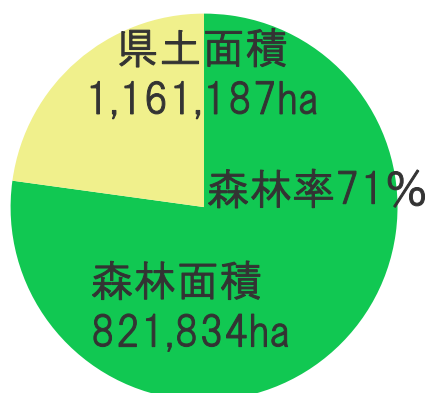
順位	都道府県	出力（キロワット）
1	青森県	38万3200
2	秋田県	35万5200
3	北海道	35万2500
4	鹿児島	26万4300
5	三重県	18万300

（日本風力発電協会まとめ。平成28年3月末現在）

秋田県風車201基（平成29年3月現在）

【2】森林資源

秋田県の県土面積



- 県土の約7割は森林
- スギの生産量日本一

風資源の活用



風力発電事業



✓ H24/9に風力発電会社『ウェンティ・ジャパン』を設立

森林資源の活用



バイオマス発電事業



✓ H28/7に大型バイオマス発電事業スタート



(株)ユナイテッドリニューアブルエナジー

- ✓ 地元の若手企業家のチャレンジ。
- ✓ 地域活性化に対する熱意とイノベーションを産学官金で支援

プロジェクト概要	秋田市向浜バイオマス発電所
発電規模	20,000kW（送電端17,400kW）
総事業費	約125.6億円
予想発電量	約139.2百万kwh/年間（売上高4,479百万）
一般消費電力	38,000世帯分 ※CO2は77千t/年削減

“未利用材”を生産者から買取



工場で“チップ燃料”へ



“燃料”を使って発電



原木生産者・チップ業者との信頼関係

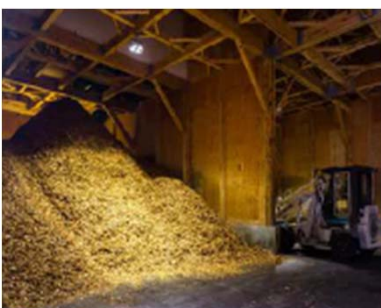
チップを安定して調達するために



量の調査
生産者の悩み調査

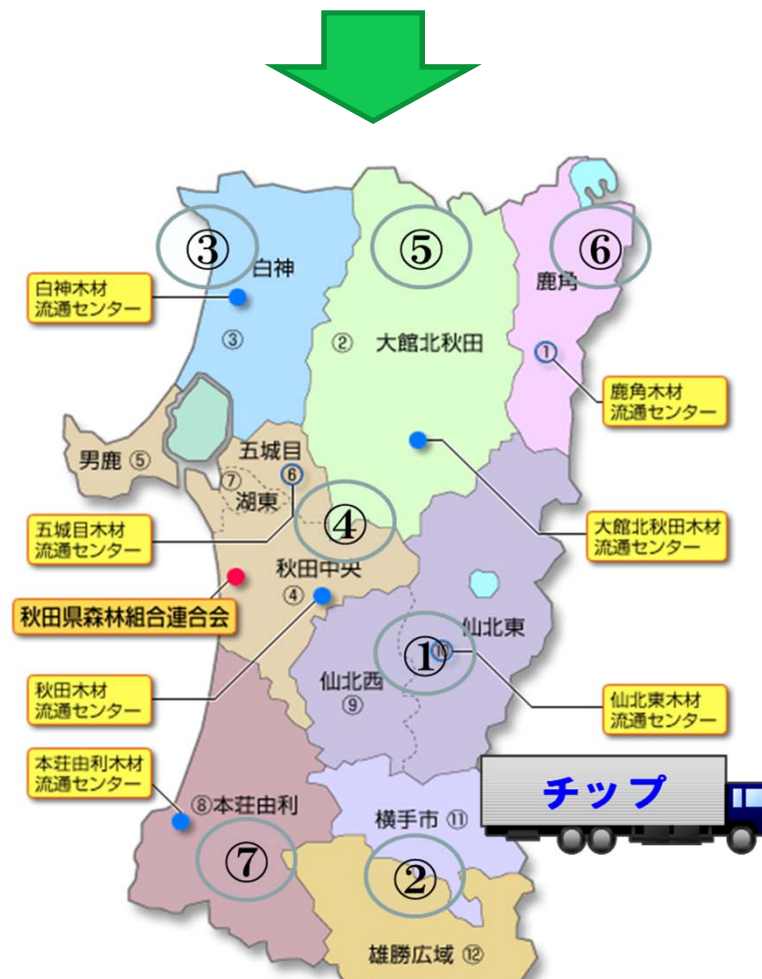


価格の決定
山側にも十分な
利益を還元



県内2箇所に
チップ工場新設

結果⇒県内7カ所でチップを供給



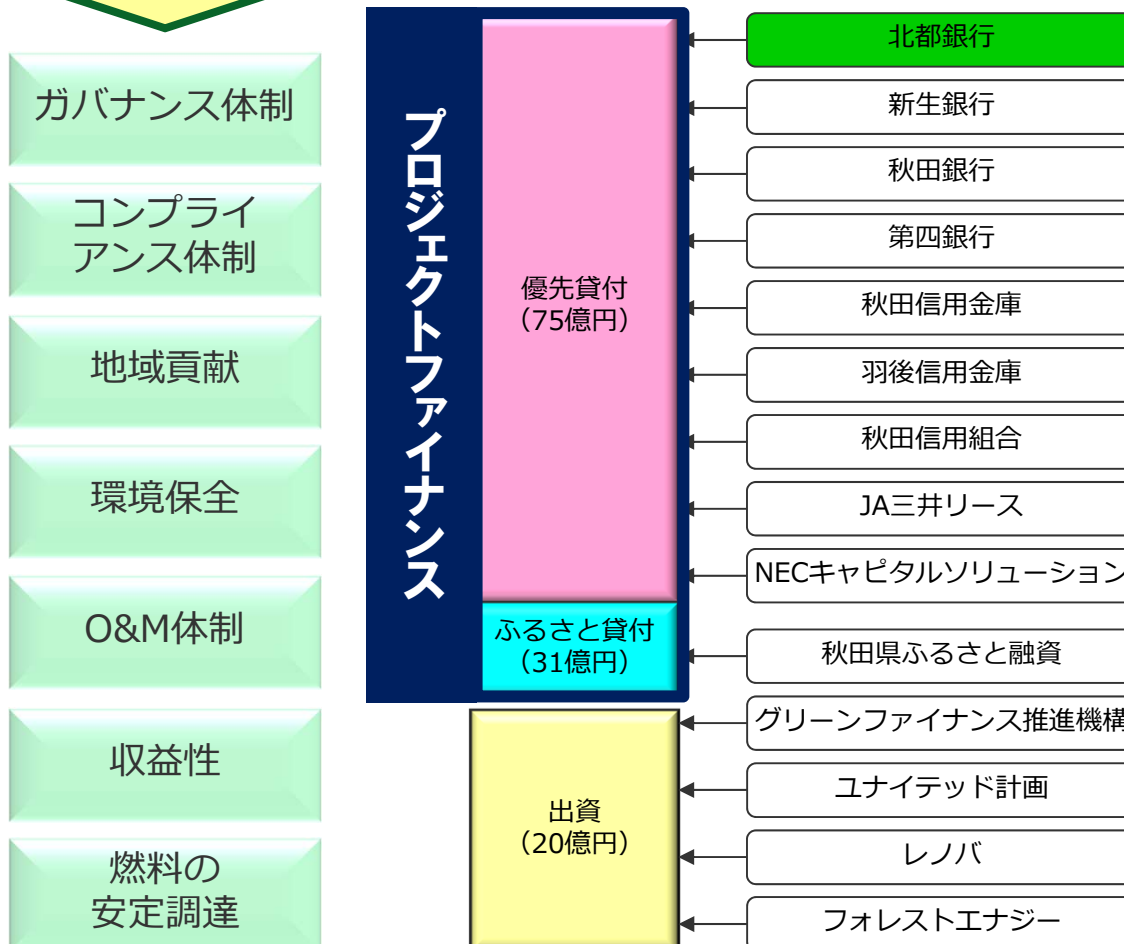
★10tトラックで1日35～40台が入荷

プロジェクトファイナンスの組成

北都銀行が中心となり、プロジェクトファイナンス組成

事業性評価開始から約2年で融資方針決定

事業の評価ポイント



↑プロジェクトファイナンス契約を締結

オール秋田で支援



“地方版”プロジェクトファイナンス



✓ プロジェクトファイナンスとは

»企業の信用力ではなくプロジェクトの事業性に依拠した審査

地域金融機関が中心の新しい融資手法

特徴	ポイント
返済財源	当該事業のキャッシュフロー
遡及の有無	遡及なし（Non-recourse）
リスク負担	リスクは一部、銀行等が負担
エクイティ	通常20%以上が望ましい

北都銀行は20%に拘らない審査スタンス

【ご参考】 当行プロジェクトファイナンス組成額推移

	25/3	26/3	27/3	28/3	29/3
組成額	10億円	5億円	137億円	125億円	216億円

～4年間で累計12件（H29/9現在）のプロジェクトファイナンスを組成～

太陽光発電向け⇒4件



風力発電向け⇒7件



木質バイオマス発電向け⇒1件



経済効果

【図表1】経済波及効果の概要（20年間の合計）
（フィデア総合研究所調べ）

	合計	初期投資の 効果	事業開始の 効果
経済波及効果	501億円	49億円	453億円
直接効果	264億円	30億円	235億円
第1次間接効果	161億円	10億円	151億円
第2次間接効果	76億円	9億円	68億円
雇用効果	4,710人	456人	4,254人

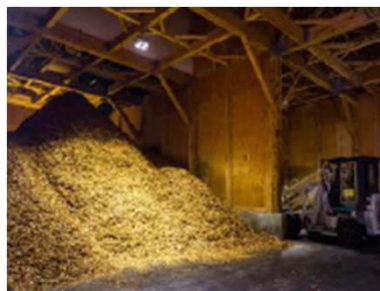
平成27年度『林業大学校』開校式



間伐材から約3割の
未利用材発生



未利用材から木質
チップ（燃料）へ



植樹。次の50年の
山林再生へ



若者の林業に対する
イメージアップ



秋田県を世界に誇るエネルギーのメッカへ

環境保全

ご清聴ありがとうございました

